

医師を目指す学生のための情報誌

因伯兔

いんぱくと

発行月：2023年 1月

厚生労働省指定臨床研修病院

鳥取生協病院

鳥取医療生活協同組合



TORIREN.IGAKU

発行元：鳥取県民主医療機関連合会
☎0857-29-3598 ✉ igakusei@tori-ren.jp

地域医療を支える力

～コロナに負けず、奮闘する職員たち～

鳥取生協病院を含む全ての事業所で、地域医療を守るため、日々職員たちが奮闘しています



鳥取生協病院

コロナ対応の重点医療機関として、陽性患者の受け入れ、発熱外来等の役割を果たしています。職員や家族の感染などで出勤できない職員が増える中、**安全・安心の医療**を提供するため全職員が力を合わせて奮闘しています。

コロナ病棟でのセラピストの関わり

第7波では、重症化リスクの高い介護が必要な高齢の方がコロナに感染し、入院が急増しました。治療期間中、心体・認知機能の低下を防止するためコロナ病棟へ理学療法士を配置しました。入院早期から専門的知識をもったセラピストが介入し、コロナ感染による入院で心身機能が低下することなく退院ができるよう、病棟看護師と協力しながら今後も関わっていきます。

せいきょう子どもクリニック

積極的にコロナワクチンや抗原検査を行っています。コロナワクチン接種は小児に限定せず、高齢者も含め全年齢を対象とし、自院だけでなく鳥取市や郡部の町の集団接種にも参加しています。コロナだけでなく他の感染症の増加もあるなか、「**断らない**」を合言葉にした連携強化をすすめてきました。9月から始まった自宅療養者に対する健康観察なども行っており、地域からも頼られていることを実感しています。

多職種連携

～施設管理課との連携で通院困難患者の送迎が可能に～
鳥取生協病院・民医連だからできること

透析治療は、一生止めることのできない治療です。

高齢化や合併症の影響でADLが低下し、通院が困難になっていく患者さんも少なくありません。

この事例は、生協病院での通院困難患者の送迎について、多職種が連携し送迎が可能になったお話です。

夫婦2人暮らしのAさん。長年、夫が透析の送迎をおこなっていましたが、Aさんの脳疾患発症後、ADLが低下したため送迎での透析が難しくなりました。経済的困難もあり、通院をどう支えていくかが問題となりました。Aさんは他の合併症の関係もあり、生協病院での透析管理が必要です。そこで、透析スタッフで協議し、病院管理部に相談した結果、※1施設管理課が、業務の合間を縫って送迎支援をする事が可能になりました。

(※1病院で活動する全ての方に安全で快適な環境を提供するために建物・設備のメンテナンスとマネージメントをサポートしている部署)

地域の透析事業所災害ネットワーク会議では、「雪の多い地域では冬季の通院は大変。身障手帳で支給されるタクシーチケットも回数制限があるため自己負担が生じ、経済的に圧迫される。行政の力を借りることができたら良いのに...」という声もあがっています。送迎サービスをおこなっている透析事業所もありますが、送迎サービスに公的な報酬はありません。患者さんが治療を継続する権利を守るために、自腹でおこなっているのです。患者さんが安心して治療を継続するために、公的責任による透析患者の送迎を行政に働きかけていくことの必要性を感じた事例です。

ドキドキ研修医

針刺し予防学習会

濱江
医師苗村
医師

針刺しによる **職業感染** から
あなたの身を守りましょう。

針刺し切創粘膜暴露による職業感染は、全国的に見ても医療機関における代表的な労働災害です。

そこで、※1ICTと※2安全衛生委員会合同の『針刺し防止学習会』に初期研修医の濱江医師と苗村医師が参加しました。ICTからは職業感染対策の目的とポイント・そして標準予防策の徹底について、安全衛生委員会からは血液媒介病原体の理解とワクチンの重要性について学びました。

(※1感染制御チーム：院内の感染対策を担うチーム ※2職員の安全と健康を確保し、労災防止を目的とした委員会)